

鶴嶺西地区 防災“も”まちづくりシンポジウム 開催報告

鶴嶺西地区まちぢから協議会では、令和5年度に行った「防災“も”まちづくりワークショップ」での取り組みや、ワークショップを契機に始まった活動について、地区にお住いの住民や事業者の皆さまと広く共有し、今後、地区で取り組む防災まちづくりについて話し合うため「防災“も”まちづくりシンポジウム」を開催しました。

第1部では、認定NPO法人 日本都市計画家協会理事 内山征氏の基調講演が行われるとともに、鶴嶺西地区まちぢから協議会より、令和6年度の活動報告を行いました。

第2部では、地区内の住民、中学校や企業の防災担当者等を交え、防災“も”まちづくり円卓会議を行い、今後のまちづくり活動について話し合いました。

<シンポジウム開催概要>

日時：12月7日（土）13：30～16：30
場所：鶴嶺西コミュニティセンター
参加人数：20人
主催：鶴嶺西地区まちぢから協議会
協力：茅ヶ崎市

【第1部】

- ◆基調講演「みんなで取り組む防災“も”まちづくり」
- ◆鶴嶺西地区防災“も”まちづくり活動
令和6年度の活動報告

【第2部】

- ◆防災“も”まちづくり円卓会議
テーマ「つながろう、みんなが主役のまちづくり」

【第1部】



【第2部】



発行：茅ヶ崎市 都市部 都市政策課
TEL：0467-81-7181

発行日：令和7年3月
FAX 0467-57-8377

第1部

基調講演「みんなで取り組む防災“も”まちづくり」

※東京大学 加藤孝明教授の基調講演を予定していましたが、急きょ欠席となったため、代理で日本都市計画家協会理事 内山氏の基調講演を実施しました。

日本都市計画家協会 理事 ^{うちやま}内山 ^{すすむ}征 氏

認定NPO法人 日本都市計画家協会 理事 / (株)アルメック 執行役員
日本都市計画家協会は、全国のまちづくりに寄与するため、まちづくりの経験や知恵を社会に還元する認定NPO法人。学識、コンサルタント、自治体など、多様な都市計画やまちづくりの専門家により構成。

まちづくりコンサルタントの(株)アルメックで働く内山氏は、日本都市計画家協会では「地域主体のまちづくり支援」を担当。まちづくり出前講座を実施し、地域課題の解決や今後の後押しにつながるプログラムを提供。

令和5年度に行った鶴嶺西地区「防災“も”まちづくりワークショップ」は、東京大学 加藤孝明教授監修のもと、日本都市計画家協会がファシリテーター役を務め、内山氏が全体統括を担当。



地域主体のまちづくりとは

- ・まちづくりは、「自助」・「共助」・「公助」に分類されます。
 - 「自助」のまちづくりとは、個人の活動として行うまちづくりです。
例：自宅の耐震化、感震ブレーカーや消火器の設置、家庭での食料の備蓄など
 - 「共助」のまちづくりとは、地域住民が協力して進めるハード、ソフトの活動です。
例：住民が集まって行う草刈りや防災活動、有志が楽しみながら進めるイベントなど
 - 「公助」のまちづくりとは、市役所などの公的機関が進める都市計画です。
例：市役所等の支援、公園や道路の整備など
- ・地域主体のまちづくりは「共助」のまちづくりにあたります。
- ・地域主体のまちづくり活動を続けることで、企業や学校、商業者などの地域の他団体と連携する体制ができた事例があります。例：平塚まちなか活性化隊

「防災“も”まちづくり」の考え方

- ・災害時の被害を最小限に抑えるには、様々な人たちが互いに連携し、自助・共助による地域全体の災害対応力を高めておくことが大切です。そのためには、防災“だけ”で取り組みを進めるのではなく、自治会や各団体が日常的に実施している活動（お祭り等のイベント、清掃活動、自治会費の集金等）の中に、防災に対する活動を取り込む工夫や、活動を通じて顔見知りをつくるなど、日ごろの活動を通じて、結果として地域の防災力が高まっていく。このような活動を「防災“も”まちづくり」と位置づけています。
- ・「防災“も”まちづくり」を行うことで、住んでいる地域の災害リスクを理解し、災害を難なく乗り越えられるようになり、地域で幸せに暮らすことにつながります。

鶴嶺西地区で進める「防災“も”まちづくり」

◆目標：地域一丸で災害を乗り越える

- ・鶴嶺西地区は様々なコミュニティ活動を行っており、その素地・資質を十分に持っています。
- ・市のハザードマップの情報を活用して、地震、洪水等、自身が住む地区で起こりうる災害を具体的にイメージし、地域で共有することが「防災“も”まちづくり」の第1歩です。
- ・「防災“も”」の考えで地域内に仲間を増やし、地域にある資源や人材を上手に活用して、工夫しながら、防災に取り組んでいくことが理想です。

鶴嶺西地区防災“も”まちづくり活動 令和6年度の活動報告

◆鶴嶺西地区ワークショップの概要

令和5年度に、鶴嶺西地区まちぢから協議会運営委員への声掛けを行い、自治会役員、民生・児童委員、地区社協等をメンバーとして、ワークショップを3回開催しました。

各回とも約30人の方々にご参加いただきました。

◆ワークショップの内容

第1回ワークショップでは、加藤先生の基調講演と災害時の被害想定の説明があり、「地域から始める防災“も”まちづくり」というテーマで意見交換を行いました。また、各種団体の日常の活動内容を共有し、その活動の中にある防災上の効果等を話し合いました。

第2回ワークショップでは、防災の視点でまちあるきを実施し、災害時の危険箇所や避難する際に問題になりそうな箇所、地域資源等について意見交換をしました。また、今後の連携や新たな活動についてもアイディアを出し合い、共有しました。

第3回ワークショップでは、先の2回の結果を踏まえて、鶴嶺西地区で進めていくべき取組内容をアクションプランとしてまとめ、「防災“も”まちづくりマップ」を作成しました。

◆キャッチフレーズ

ワークショップでは、鶴嶺西地区の今後のまちづくりを表すキャッチフレーズをグループごとに考えました。各キャッチフレーズから見える地区の将来像は、まちぢから協議会を中心に体制をつくり、多様な人々が連携し、住民主体でまちづくりが進められ、結果として地域の防災力が高まり、住民が安心して住むことができる地域を目指すというものです。また、考えたキャッチフレーズは、本日の円卓会議のテーマ「つながろう、みんなが主役のまちづくり」につながっています。

◆すぐ進めること

鶴嶺西地区ですぐに進める防災“も”まちづくりの6つの取り組みをまとめました。①地域を知るイベント、②親子や若い世代が主導となるイベント、③事業者・企業との連携、④防災訓練の充実、⑤要支援者の対策、⑥防災に関する情報共有です。

◆まちづくりの体制

「防災“も”まちづくり」を進めていく上では、まちぢから協議会が中心になって、自治会や各種団体、事業者、企業といった様々な主体が連携・協力し、地域全体で取り組んでいく必要があることがわかりました。今回のワークショップ開催をきっかけに、地域一丸となって地域課題に取り組んでいきたいと考えます。



鶴嶺西地区まちぢから協議会
会長 貴島 義夫 氏

2. ワークショップの概要

令和5年10月～令和6年2月にかけて3回開催しました。

	開催日時・場所	実施内容
第1回	日時：2023年10月29日（日） 13:30～16:30 場所：鶴嶺西コミュニティセンター 2階会議室2、3、4	テーマ：災害時をイメージし、日ごろの活動を共有する！ ①基調講演 東京大学加藤孝明教授、「防災“も”まちづくり」講演 ②災害時の被害想定 鶴嶺西地区に特化した、災害時の状況や被害をイメージ ③ワーク・発表 日ごろの活動を共有し、課題や防災上の効果等を整理
第2回	日時：2023年12月17日（日） 13:30～16:30 場所：鶴嶺西コミュニティセンター 2階会議室2、3、4	テーマ：「まちあるき」によりまちを点検してみよう！ ①まちあるき 防災の視点でまちあるきを行い、災害時の危険箇所や避難時に問題になりそうな箇所、地域資源等の確認 ②ワーク・発表 まちあるきのまとめ、今後の取り組み内容を整理
第3回	日時：2024年2月18日（日） 13:30～16:30 場所：鶴嶺西コミュニティセンター 2階会議室2、3、4	テーマ：鶴嶺西地区で取り組む「防災“も”まちづくり」について考える！ ①ワーク・発表 今後、進めていくべきアクションプランについて意見交換し 防災“も”まちづくりマップを作成

① 鶴嶺西地区のまちづくりのキャッチフレーズ

第3回ワークショップで、各グループから1つずつ、5のキャッチフレーズを考案

- ①訓練すれば、助かる！
- ②つながろう、あなたが主役のまちづくり
- ③ONE 鶴嶺西地区～住民連携、幅広い世代で同じ方向を向こう！！～
- ④小さなネットワークから絆づくり
- ⑤まかせて「安心」まちぢから

各キャッチフレーズから見える地区の将来像

まちぢから協議会を中心に体制をつくり、多様な人々が参加しながら連携し、住民主体で防災まちづくりが進められ、それにより、住民が安心して住むことができる地域を目指す。

⑥ すぐ進めること

鶴嶺西地区で、すぐに進める防災“も”まちづくりの6つの取組をまとめました。

地域を知るイベント

- ・地域の資源、歴史を知ることができ参加型のイベントを実施し、地域への愛着を醸成。
- ・防災に関する情報も提供する。

親子や若い世代が主導となるイベント

- ・若い世代が参加しやすくなるイベントを、若い世代が主導して企画。
- ・各団体が声掛けをして参加者を募る。

事業者・企業との連携

- ・まちぢから協議会等が、事業者、企業との話し合いを始める。
- ・地域内の商業施設、工場の特徴を把握し、地域で共有する。

防災訓練の充実

- ・防災訓練の参加者を増やし、実のあるものにしていくために、各団体が協力して声掛けを行う。
- ・消火設備の使い方の周知や、かまどベンチを活用した訓練などを実施。
- ・若い世代等が参加しやすくなるような工夫を実施。

要支援者の対策

- ・災害時の要支援者の避難活動が大きな課題となっているため、地区全体で対応策・体制を検討。
- ・特に、水害時の独居の高齢者、障害者の避難に着目して検討。

防災に関する情報共有

- ・まちぢから協議会、自治会、地区社協、民生・児童委員等の各団体が、防災に関する情報（備蓄倉庫の使い方、消火ホース等の使い方、避難場所に関するルール等）を共有

令和5年度 鶴嶺西地区 防災“も”まちづくりワークショップ ※詳細は市 HP で

<https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/machidukuri/1007927/1008018/1057753.html>



◆令和6年度の活動報告

鶴嶺西地区では、ワークショップの開催をきっかけに、実行委員会を立ち上げ、計7回の会合を経て、「つるにしサマースペース」を開催しました。

◆つるにしサマースペースの概要

夏休み中、子どもだけで過ごさなければならない家庭を支援するため、保護者が安心して子どもを預けられる居場所づくりと、「防災“も”」につながるコミュニティ活動として、「つるにしサマースペース」を開催しました。

実行委員会のメンバー他、地元有志の方々・高校生ボランティア・大学生ボランティア・地元企業アルバックなどの協力を得て行いました。

実施期間は7月23日から8月29日の間で、参加人数は、児童59名、一般ボランティア71名、高校生ボランティア31名、19日間で述べ901名が参加しました。

「つるにしサマースペース」では、夏休みの宿題などの学習時間のほか、プラバンなどの工作遊び、フルーツポンチなどの料理教室、防災・福祉イベント、真空実験教室、その他、マイクロバスによる環境事業センターや博物館の見学ツアーなどを実施しました。また、市の防災対策課に協力いただき、起震車を呼ぶなどして防災イベントも開催しました。

◆つるにしサマースペースの成果

今回の取り組みで、子どもを中心に、地域住民、各種団体のつながりを深めることができました。

来年度以降も「つるにしサマースペース」を実施し、さらに「防災“も”まちづくり」の要素を取り入れていきたいと考えています。

具体的には地元企業アルバックにご協力いただき、親子での場内見学と災害時の避難訓練の合同実施などを検討していきたいです。子どもたちと楽しみながら防災を学ぶことができれば、「防災“も”まちづくり」につながる活動になるかと思います。

今後も地域として「防災“も”まちづくり」の取組を、皆様のご協力を得ながら取り組んでいきたいと思っています。

Ⅱ つるにしサマースペース2024の開催報告

1. つるにしサマースペースの概要

・鶴嶺西コミュニティセンターでは、夏休み中、子どもだけで過ごさなければならない家庭を支援するため、安心して子どもを預けられる居場所として「つるにしサマースペース」を開催しました。

・7月23日(火)から8月29日(木)の間、地元有志の方々・高校生ボランティア・大学生ボランティア・地元企業アルバックの協力を得て行われました。

・夏休みの宿題などの学習時間のほか、工作遊び、料理教室、防災・福祉イベント、真空実験教室、その他、またマイクロバスによる見学ツアーなどを実施しました。

・このようなコミュニティ活動は、防災“も”まちづくりに、つながる取組となります。

2. つるにしサマースペース2024の様子



3. つるにしサマースペースの成果

・つるにしサマースペースでは、子ども中心ですが、地域の住民が交流し、つながることができました。

・また、運営側として、地元大学生、高校生、地元有志の方々とのネットワークが強くなりました。

・防災・福祉イベントを開催したことにより、防災意識の向上にもつながりました。

・今後も、防災“も”まちづくりを意識して、コミュニティの活動に取り組んでいくことが求められます。

防災“も”まちづくり円卓会議「つながろう、みんなが主役のまちづくり」

コーディネーター：内山 征氏（日本都市計画課協会 理事）
 パネリスト：久慈 崇さん（鶴嶺西地区まちづから協議会 防災部会長）
 パネリスト：堀内 秀行さん（鶴嶺西地区社会福祉協議会 会長）
 パネリスト：濱田 盛厚さん（鶴嶺西地区民生委員児童委員協議会 会長）
 パネリスト：佐藤 昭夫さん（鶴嶺西地区民生委員児童委員協議会）
 パネリスト：稲川 礼子さん（今宿自治会 副会長）
 パネリスト：田崎 蒼一郎さん（萩園中学校 防災担当教員）
 パネリスト：牧野 太郎さん（株式会社アルバック 総務部総務課担当課長）
 パネリスト：石川 美紀さん（日本都市計画家協会 ワークショップファシリテーター）



◆防災“も”まちづくり円卓会議

円卓会議では、内山氏が進行役となり、登壇者の皆さんと、「つながろう、みんなが主役のまちづくり」のテーマで、鶴嶺西地区の「防災“も”まちづくり」について意見交換をしました。

◆令和5年度のワークショップに参加した感想

<久慈さん>

ワークショップでこの地区の課題が見えたので、防災部会がいろいろなところと連携し、防災に強いまちづくりをしていこうと思っています。今は避難行動要支援者の対応について話しています。

<堀内さん>

ワークショップに参加し、福祉にも通ずるところがたくさんあると感じました。

<濱田さん>

ワークショップで考えたキャッチフレーズの「つながろう」ということに関連して、今年の夏、民生委員で高齢者実態調査を実施しました。地域の人を知る良いきっかけになりました。

<佐藤さん>

高齢者実態調査を実施し、いざ災害時にならないとわからないことがあるため、いろいろ勉強しておく必要があるとわかりました。

<稲川さん>

ワークショップの中で、たき火で焼き芋を作った後にそのたき火を消火するのも防災“も”につながると聞き、実際に、自治会で芋を植え、子どもたちと芋掘りを行いました。焼き芋まではできなかったですが、今度地域の皆さんと芋を食べる予定で、ワークショップのおかげで子どもたちや地域とつながる取り組みができました。

<石川さん>

皆さんのお話を聞いて、ワークショップを契機に、地域の方々が実際に行動に起こしていることが分かり、ワークショップをやって良かったと思っています。



◆若い人たちに「防災“も”まちづくり」を伝える方法

<内山氏> つるにしサマースペースで実施した防災プログラムのように、若い人たちに「防災“も”まちづくり」を感じてもらうにはどうすればいいでしょうか。

<堀内さん>

つるにしサマースペースでは防災に関するプログラムは1日だけでしたが、子どもたちや保護者とのつながりができた点は一つのメリットと感じています。



第2部

防災“も”まちづくり円卓会議「つながろう、みんなが主役のまちづくり」

<会場参加者（貴島さん）>

防災については言葉で言うよりも体験してもらった方が良いと考えます。鶴嶺西コミュニティセンターでは防災訓練を定期的に行いますが、その中で水消火器の訓練を行い、子どもたちに毎回参加してもらっています。高校生でも消火器を使うのは初めてと話す子もいて、実際に体験する機会を与えて防災に興味を持ってもらえればと考えています。



<稲川さん>

私もどうして芋づくりをしたかということ子どもたちにまだ話せていないので、今度芋を食べる際に伝えていきたいと思います。少しでも防災に興味を持ってもらえれば嬉しいです。

<久慈さん>

防災イベントに参加した子どもたちが成長した時、もっと防災に強いまちになると思います。

<内山氏>

継続的に楽しくできることが防災“も”まちづくりだと思うので、いろいろなアイデアで取り組めると良いと思います。子どもたちや若い世代の保護者に「防災“も”まちづくり」を伝えていくことが重要です。

◆中学生への防災教育

<田崎さん>

中学校では、ハザードマップを使用した防災教育や、年間3回の避難訓練を行っています。



<内山氏>

災害復旧時には、地域にいる中学生が一番役立つのではないかと考えるについてどう思いますか。

<田崎さん>

中学生は元気なので災害復旧時には地域に貢献できると思います。学校として防災教育に確保できる時間は限られていますが、復旧作業時に手伝うボランティア精神については、普段の学校生活の中で育ませることができるのでそこに力を入れていきたいです。人格形成にもつながると思っています。

<内山氏>

「防災“も”学校教育」ということですね。

<会場参加者>

2019年の台風19号のとき、避難所で中学生が教室の机と椅子を廊下に出す作業をしていて感心しました。



<濱田さん>

中学生もしっかり働きますよね。まずは何かのイベントに少しでも参加してもらえればと考えています。

<稲川さん>

中学生に地域の防災訓練に参加するようPRしてもらえると良いと思います。

<会場参加者（森さん）>

自治会で実施している防災の取り組みでは萩中生に手伝ってもらい、一緒に発電機の取り扱い方法を確認しました。また、2019年の台風19号のとき、避難所で車いすの母の階段移動の介助を中学生が手伝ってくれて、ありがたかったです。



<内山氏>

地域の方が防災に関して教えた子どもたちが大きくなると、地域の防災力が高まると思います。

防災“も”まちづくり円卓会議「つながろう、みんなが主役のまちづくり」

◆地域と企業との連携

<牧野さん>

2019年の台風19号のとき、1,000名程度がアルバックに避難してきた、社員3人と市の職員で対応しました。そのときはペットの受け入れや防災備品の標準的な配布量などわからないことが多く、このことをきっかけに市と連携するようになりました。また、11月に開催したアルバックフェスティバルでは、住民に工場など弊社の建物に入ってもらいました。防災目的ではないですが、避難時に行ったことのないところに避難するよりは良いと思いますので、地域との交流を今後も続けていきたいです。



<久慈さん>

会場にアルバックを使わせてもらい、アルバックだけではなく鶴嶺西地区の企業にも参加してもらい、まちから協議会、自治会、民生委員といった地域の人みんなで防災訓練をすることを目指していきたいです。



<牧野さん>

アルバックでの開催は機密管理等の問題もあり、すぐにやりましょうと回答できないですが、前向きに検討させていただきます。

<会場参加者（貴島さん）>

すでに防災用デジタルMC A無線では鶴嶺西コミュニティセンターとアルバック等の地域企業は繋がっています。コロナ前には萩園自治会とアルバックで防災訓練を合同で開催していたので、また一緒にやれるように開催を目指していきたいです。

◆避難行動要支援者への支援

<内山氏>

避難行動要支援者と民生委員の需給バランスが全然合わない中で、どのようにして助け合いながら避難すれば良いのか意見交換したいです。

<濱田さん>

民生委員児童委員協議会の理事会で、市から避難行動要支援者の避難方針の説明があり、市ではストレッチャーや介護車が必要な重度の人の支援を検討しているので、軽度の人については自治会で検討してほしいということでした。自治会で要支援者を4段階に分けてできるところから進めたいと思っています。



<佐藤さん>

高齢者実態調査をやって、避難指示が出ても家が一番安全だと思い、避難しないと考えている方が多い印象を受けました。災害時にはその場合の対処に戸惑う気がしていて、いろんな悩みを抱えています。

<久慈さん>

防災部会では、自治会長だけがもらえる避難行動要支援者リストをマップに落とし情報共有する取り組みを今宿自治会と萩園自治会で昨年行いました。他の自治会についてもこれから進めていきたいと思っています。萩園サンハイム自治会では、役員全員に避難行動要支援者の場所を伝え、声かけだけで良いので見守ってくださいという取り組みをしています。

<内山氏>

民生委員が一人で避難行動要支援者全員を助けるのではなく、民生委員がマネジメントして、みんなで助ける体制づくりをしているのですね。

第2部

防災“も”まちづくり円卓会議「つながろう、みんなが主役のまちづくり」

<会場参加者（森さん）>

萩園自治会では自治会独自に決めた日頃の見守りの優先順位をつけた要支援者名簿を自治会の最小単位の組の役員・委員に渡し、災害時の支援ではなく日頃の声かけをしてくださいとお願いしています。

<稲川さん>

民生委員は自分の住んでいる地域とは別の地域を受け持つため要支援者の日頃からの見守りができないので、組で声かけをしているのは良いと思います。個人情報の問題はどのように解決しているのですか。

<会場参加者（森さん）>

個人情報の問題は非常に重く、公表されている名前と番地が載った地図を使うことで活動しやすくなっています。自治会に入っていない方は民生委員に重点的に見守ってもらいたいと思い、自治会、自治会の防災リーダー、民生委員が三位一体となって活動できるように共通の名簿を作り、日頃の見守りの優先順位と自治会の加入の有無も載せました。ただし、個人情報を考え、電話番号は伝えていません。

<内山氏>

要支援者の情報を持った民生委員が中心となってマネジメントしていき、組単位で動かして日頃から見守りできる方法を考えていくこと、自治会も含めた情報共有をしていくことが重要だと思いました。また、民生委員自身の避難と要支援者の避難の支援の判断基準については今後考えていく課題だと思いました。

◆まとめ

<内山氏>

若い人たちに「防災“も”まちづくり」を伝える方法、中学生への防災教育、地域と企業との連携については、前向きに意見交換でき、今日の円卓会議が取り組みをスタートするきっかけになれば嬉しく思います。避難行動要支援者への支援については、みんなで考えていく必要があり、地域全体で協力しなくてはならない課題だと思うので、去年のワークショップと今日の円卓会議をきっかけに「防災“も”まちづくり」のプラットフォームができればより良い鶴嶺西地区になると思います。

◆総括

いろいろな防災の話題において、結局は顔の見える関係作りに尽きるかと思っています。コミュニティセンターや公民館などでこれからも交流を深めていけたら良いと思います。今後、顔の見える関係作りを続けていくために、まちちから協議会としては皆さんと協力しながら取り組んでいきたいと思いますので、ぜひ協力をお願いします。



鶴嶺西地区まちちから協議会
副会長 森 繁 氏

加藤先生のコメント

この度は急きょ欠席となり、申し訳ございませんでした。災害を乗り越えるためには、まだまだ課題は山積です。一方でやれることも沢山あります。シンポジウムでの議論をうかがうに、日常のまちづくりと災害への備えを重ね合わせる「防災“も”」の考えが芽吹き、定着していく兆しが感じられました。今回の円卓会議のように地域の中で輪を上げ、緩やかに連携しながらこの動きを拡げていくことが大切だと思います。災害への備えも日常のまちづくりも進む、しかも自然な形で進む。楽しみながら取り組んでいただければと思います。



東京大学 生産技術研究所
教授 加藤 孝明 氏

アンケート結果

シンポジウムの際に、ご記入いただきましたご感想の一部をご紹介します。
貴重なご意見をありがとうございました。

今後、地域で取り組みたい内容について

- ・防災イベントの企画ができれば良いと思う。
- ・自治会の中心である神社境内でイベントなどをしていきたい。
- ・防災について自治会等の役員さんは参加しているがなかなか一般人は参加しづらい。
- ・参加しなければ何も出来ないので参加するようにしたい。
- ・防災まちづくりとして子ども（小中高）への防災の勉強を増やしていきたい。
- ・様々な地域の取り組みに中学生が参加できるように宣伝していきたいと思う。
- ・在宅避難について色々な所で検討していけたら良い。

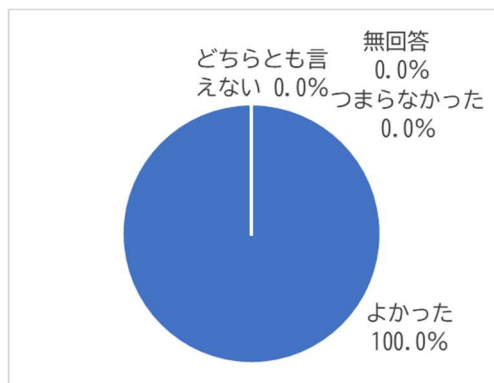
シンポジウムの印象や、言い残したこと、質問など

- ・日常の防災に対する様々なケースを聞いて色々と勉強になった。
- ・大変勉強になった。関係者の皆様ありがとうございました。
- ・学校との連携が重要と感じた。
- ・地域で行われることを学校職員が知らないことがあったので、共有できるようにしたいと思う。
- ・とても楽しい雰囲気で聞けたことが良かった。
- ・まちづくりワークショップに参加できなかったのが残念だった。
- ・初期の治療、ケガ・病気、弁当、排せつは自分持ちである。
- ・災害時の日本人の公の組織に対する過度の要求（市・県・国は何やっている、責任者出てこい等）の考えを変えないといけないと思う。お客様意識はダメ。
- ・防災“も”まちづくりの発想は重要であり、大切なことと思った。しかし、できること、できないこと、過去の災害からの教訓を知り備えることの大切さも重要。前向きな取り組みは大切だが、問題点を見いだして全員の問題意識を高める必要がある。

アンケート結果

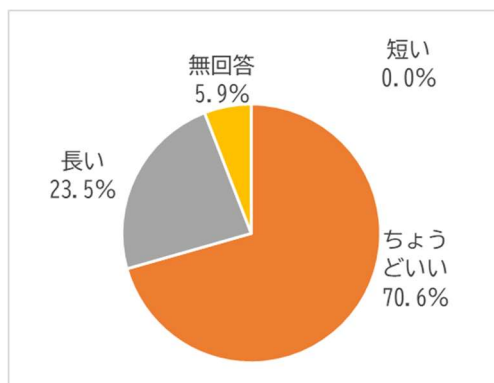
シンポジウムの際に、ご記入いただきましたアンケート結果をご紹介します。

①シンポジウムに参加したご感想は…？



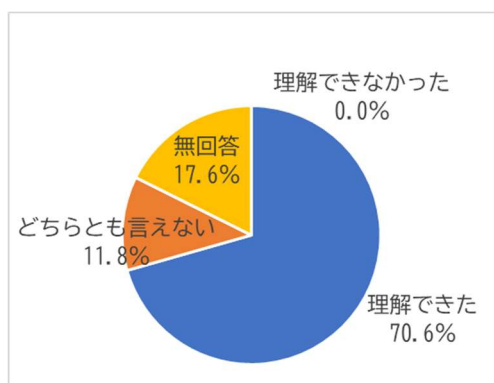
選択肢	回答数	割合 (%)
よかった	17	100.0
どちらとも言えない	0	0.0
つまらなかった	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	17	100.0

②シンポジウムの時間は…？



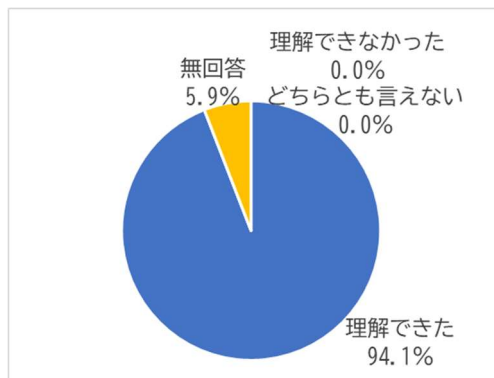
選択肢	回答数	割合 (%)
短い	0	0.0
ちょうどいい	12	70.6
長い	4	23.5
無回答	1	5.9
合計	17	100.0

③基調講演の内容は…？



選択肢	回答数	割合 (%)
理解できた	12	70.6
どちらとも言えない	2	11.8
理解できなかった	0	0.0
無回答	3	17.6
合計	17	100.0

④鶴嶺西地区防災“も”まちづくり活動（令和6年度の活動報告）の内容は…？

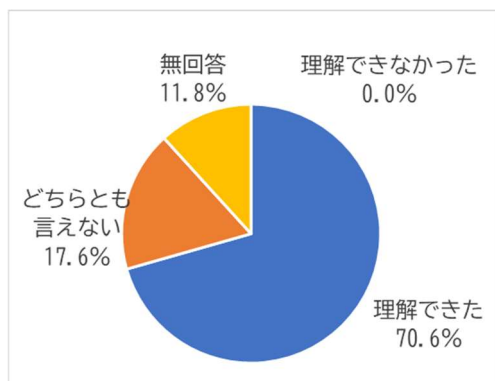


選択肢	回答数	割合 (%)
理解できた	16	94.1
どちらとも言えない	0	0.0
理解できなかった	0	0.0
無回答	1	5.9
合計	17	100.0

アンケート結果

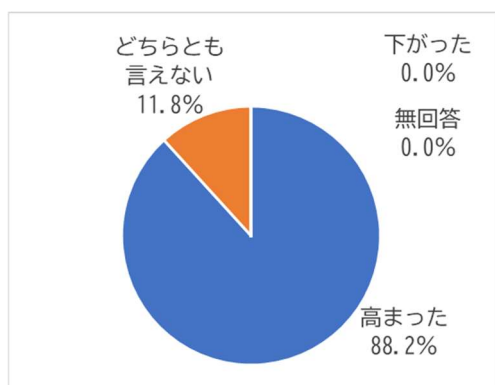
シンポジウムの際に、ご記入いただきましたアンケート結果をご紹介します。

⑤円卓会議の内容は...？



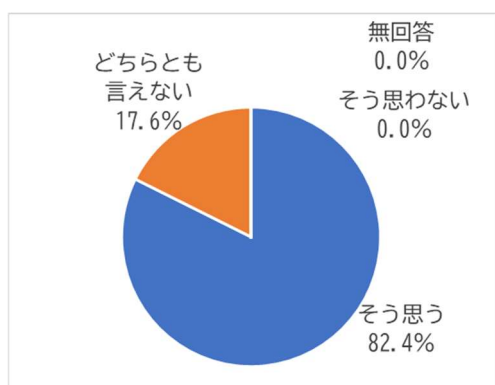
選択肢	回答数	割合 (%)
理解できた	12	70.6
どちらとも言えない	3	17.6
理解できなかった	0	0.0
無回答	2	11.8
合計	17	100.0

⑥このシンポジウムに参加したことで防災の取り組みに対する意欲は...？



選択肢	回答数	割合 (%)
高まった	15	88.2
どちらとも言えない	2	11.8
下がった	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	17	100.0

⑦今後も防災“も”まちづくりについて学校や地域で話していきたい...？



選択肢	回答数	割合 (%)
そう思う	14	82.4
どちらとも言えない	3	17.6
そう思わない	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	17	100.0